

### 16. 急性肝不全の病態—肝阻血による急性肝不全の ATP による治療

大川昌権 (千大)

雑種成犬を用い 60 分間の完全肝阻血による急性肝不全を作成し、血流再開後投与群には ATP-MgCl<sub>2</sub> を 0 μM/kg を投与し、その生存率、各種肝機能及び RES 機能を非投与群と比較検討した。結果は、投与群で 100% の生存率を得たのに対し非投与群では 40% と有意 (p < .01) に投与群で生存率の向上をみた。その他各種肝機能及び RES 機能でも高い有意差をもって投与群で改善と認められた。

### 17. 門脈循環動態に関する基礎的研究

桜庭庸悦 (千大)

門脈循環と肝血流は重要な関連性をもつが、これを基礎的に研究する目的で、イヌを用い、肝動脈、門脈血流を電磁血流計により、肝血流量を交叉熱電対式組織血流計により測定した。Vassopressin を投与すると、大動脈圧は上昇し、肝動脈血流量は 45%、門脈血流量は 0% の減少を示した。肝血流量は 30% の減少を示した。

### 18. 食道癌症例の CT スキャンによる 縦隔内転移リンパ節の診断

塚原則幸 (千大)

食道癌患者の胸腔内リンパ節転移を術前術後に発見する目的で CT を応用しているが、今回は明らかな有所見例 5 例を供覧した。描出できた転移リンパ節は拇指頭大以上の大きさで、肺への突出像としてのみ捕えられたものである。縦隔内の分析は現在使用中の装置を単純に用いるだけでは不可能と思われる。

### 19. Hyperalimantation と肝機能

坪井秀一 (千大)

高熱量投与により高頻度に肝機能異常が出現するが、そのうち GOT 先行型はカロリー N 比などの投与アンバランスにより、GPT 先行型は過剰熱量投与によるものと考え、ラット遊離肝灌流実験を行ない前者は高濃度グルコース投与により、後者は低カロリー N 比によるものである事を証明し得た。今後さらに検討を重ね、そのメカニズムを究明したい。

### 20. 門脈圧亢進症における胃静脈瘤の研究 (2)

白戸寿男 (千大)

胃静脈瘤の病態を調べる目的で X 線分類を行った。胃静脈瘤分類 III IV V 群では出血率は 70% 以上である。IPH 例では胃静脈瘤が多く、特に結節珠数型の IV V 群が多い。脾腫の触診率は胃静脈瘤分類群別では差がないが、IPH 例に高率に触れる。肝硬変例も IPH 例も拡張蛇行型の II III 群の方が、結節珠数型の IV V 群よりも腹水出現率は高い。

### 21. 乳腺疾患の超音波診断法の検討

唐司則之 (千大)

乳腺疾患の超音波断層法の診断基準の所見をできるだけ客観的に評価する目的で点数制による総合評価を試みた。3 点までが良性、6 点以上は悪性で 4、5 点は境界領域症例である。診断率は点数評価前で 68%、乳癌の診断率は 75% だったが点数評価後では各々 92%、87.5% に補正された。境界領域症例では他の臨床所見を十分に参考にし診断すべきである。

### 22. Elemental diet に関する研究 (第 3 報)

— 注入部位と消化液分泌について —

山室美砂子 (千大)

ラットに胆汁瘻、膵液瘻を作成し、ED を胃瘻または空腸瘻より投与。胆汁分泌は注入部位による差を認めないが、膵液分泌は胃瘻群で著しい増加をみた。さらに空腸内に ED、糖、アミノ酸、脂質を投与し、ED の空腸内投与は消化液分泌を刺激しないことを確認した。

### 23. 胆石を伴った胆嚢の病理組織学的研究

— 特に異型上皮について —

山本義一 (千大)

胆嚢上皮の異型度を 5 群に分け検討した。胆石を有する非癌胆嚢 83 例の全断面を組織学的に検索した結果、異型度 II は 10 例 12.1%、境界領域である III は 4 例 4.8% にみられた。この 4 例はいずれも 50 歳以上で、結石の種類はコ系石、数は 2 ~ 10 コのもので、うち 3 例は高度慢性炎症群であった。